

(仮称)厚別南・青葉地区義務教育学校

新 築 等 基 本 計 画

令和 5 年 1 月  
札 幌 市

## 1 はじめに

新札幌わかば小学校は、上野幌小学校と青葉小学校を母体校とし、昭和53年に建設した上野幌小学校校舎を令和元年に大規模改修し、翌年の令和2年に開校した。

青葉中学校は信濃中学校ともみじ台中学校を母体校とし、昭和57年に開校した。現在の校舎棟は昭和56年に建設しており、築40年以上経過し、施設の老朽化が進んでいる。

両校は校区がほぼ一致していることや、青葉中学校の校舎の老朽化が進んでいることから、青葉中学校を新札幌わかば小学校の敷地に移転し、札幌市の小中一貫した教育の更なる推進のため、義務教育学校として小中学校を一体的に整備することとし、令和7年度の工事着手に向け、基本設計を行うものである。

また、この施設には、児童会館を併設するものとする。

## 2 計画地の概要

### (1) 所在地・敷地面積

ア 校舎等敷地：札幌市厚別区厚別南7丁目9番1号 15,262㎡

イ グラウンド敷地：札幌市厚別区青葉町10丁目1番1号 17,510㎡

### (2) 地域地区等（以下は、(1)-アの敷地について）

用途地域	第1種低層住居専用地域（建ぺい率50%、容積率80%）
防火地域	指定なし
日影規制	2時間・3時間
高度地区	北側斜線高度地区
その他	戸建住環境保全地区（容積率は緩和の方向で調整）、宅地造成工事規制区域、札幌市景観計画区域、埋蔵文化財の包蔵地隣接

### (3) 都市設備 上水道、公共下水道、都市ガス

## 3 計画規模の概要

昭和53年建設（令和元年に大規模改修実施）の小学校校舎棟及び屋内運動場棟は、既存の施設を活用し、増築や既存施設の内部改修により、必要な施設や設備を整備する。

校舎棟（増築分）：延べ面積 3,200㎡（うち給食室370㎡、児童会館450㎡（※））

※天井高6m以上の軽運動可能な多目的ホール150㎡を含む。

屋内運動場棟（増築分）：延べ面積 1,337㎡ ※体育館開放用施設100㎡含む

○ 既存施設規模及び解体が必須となる建物は、別添配置図のとおり。

○ 昭和59年建設のプール棟は、配置上支障になる場合は解体する。（再整備なし）

○ 既存校舎4階は厚別南地区センターとなっており、本工事の改修範囲外。

## 4 通学区域（予定）

厚別区

青葉町1丁目～10丁目、13丁目、16丁目

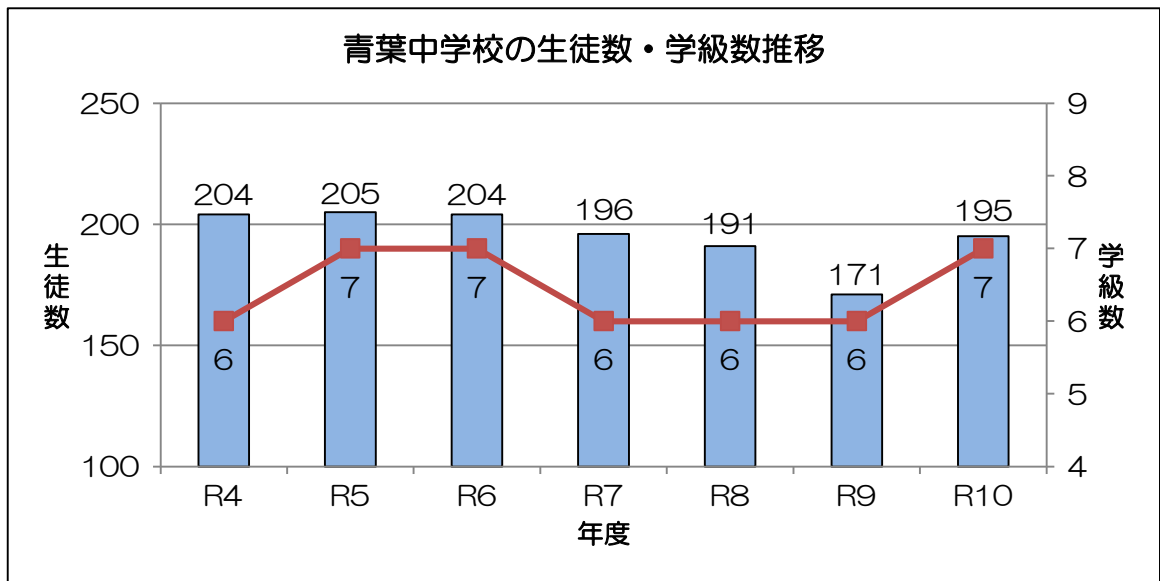
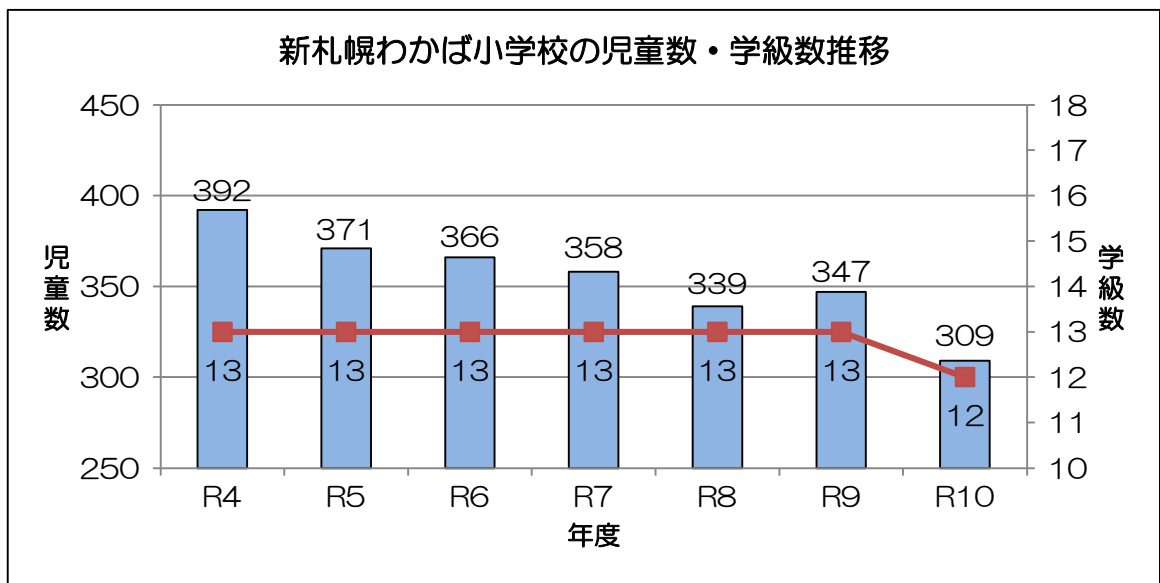
厚別南 4 丁目～7 丁目

5 児童生徒数の現況

新札幌わかば小学校の児童数は減少、青葉中学校の生徒数は概ね横ばいで推移すると見込んでいる。

令和 4 年 5 月 1 日現在

		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別 支援	合計
新札幌わかば小	児童数	80	48	66	59	67	72	10	402
	学級数	3	2	2	2	2	2	2	15
青葉中	生徒数	60	73	71	-	-	-	13	217
	学級数	2	2	2	-	-	-	3	9



※ 参考：関係施設の利用者数（令和３年度）

会館名	開館日数	利用者数	1日当たり	
			うち小学生	うち小学生
青葉児童会館	293	7,418	5,871	20
新札幌わかば小ミニ 児童会館	293	11,792	11,784	40

## 6 施設計画

施設整備の目標を基本とし、義務教育学校、小中一貫した教育などの特色を踏まえた施設を計画する。

### (1) 施設整備の目標

#### ア 教育・学習方法の多様化の視点から

(ア) 文部科学省が提唱する、「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」を踏まえ、多様な学習形態、高度な教育機器の導入などに対応可能な施設を計画する。

(イ) 児童生徒の自発的な学習活動を促し、新たな興味を引き出すことが出来る多様な空間の連続性がある施設を計画する。

(ウ) 機能性、耐久性及び安全性を高めた施設にするとともに、潤いのある施設を計画する。

#### イ 豊かな生活環境の視点から

(ア) 児童生徒が生き生きと学習に臨めるように、学校生活にリズムを与え、気持ちの切り替えが図れるゆとりと変化のある空間構成を計画する。

(イ) 学年・学級の枠を越えた児童生徒間の日常的なコミュニケーションを活発にし、先生と身近で気軽な活動を生む開放的な雰囲気施設の施設を計画する。

(ウ) 学校に誇りと愛着を持ち、思い出に繋がる文化性、芸術性及び記念性を備えた個性的な施設を計画する。

(エ) 児童生徒や教職員だけでなく、誰もが親しみをもち安全に利用できるようバリアフリーに配慮した施設を計画する。

#### ウ 地域連携の視点から

(ア) 四季の変化に富んだ札幌の気候、風土または自然環境を楽しみ、愛着を持てる豊かな感性と人間性を育てる施設を計画する。

(イ) その地区、地域に対応した機能性と、特性、歴史及び敷地の特徴を反映することにより個性的で特色ある施設のデザインを計画する。

(ウ) 児童生徒の教育の場であると同時に、より多くの諸室が学校開放に利用できる構成とし、地域のコミュニティ施設、または生涯学習拠点のために機能する施設など、PTA活動やボランティア活動等が円滑にできる施設を計画する。

#### エ 環境配慮の視点から

(ア) 自然エネルギーを活用するとともに、資源の有効活用を図り、環境と調和のと

れた学校施設を計画し、環境教育にも活用できるような施設を計画する。

(1) 環境への負荷の低減を図るなど、環境対策を講じるとともに、環境を考慮した学校施設を計画する。

(2) 義務教育学校として、札幌市の小中一貫した教育の更なる推進を図るための視点を踏まえた施設を計画する。

ア 9年間を通した児童生徒の学びのつながりを踏まえた施設を計画する。

イ 児童生徒が学年を超えていつでも交流できるような施設を計画する。

ウ 前期課程（1～6年生）の教職員と後期課程（7～9年生）の教職員が一体となって教育活動を行うことができる施設を計画する。

## 7 整備内容

(1) 増築棟又は既存棟に整備する諸室

ア 普通教室：10室

イ 特別支援学習室：3教室＋プレイルーム 1教室

ウ 特別教室：8室

第二理科室、美術室、技術室、被服室（左記各準備室）、第二音楽室、技術機械室、技術物品庫、図書室

エ 多目的室：3室

少人数対応（2室）、ICT対応

オ 管理諸室

職員室（既存職員室の拡張を目的とする）、教材室、物品庫、除雪機置場、心の教室

カ その他

給食室、配膳車置場、エレベーター、トイレ（男子用、女子用、多目的、職員用）

(2) 既存棟のうち、(1)に転用する諸室

学習室、コンピュータ教室、図工室、多目的室（一般）、多目的室（視聴覚室）、ミニ児童会館、配膳室

(3) 既存棟のうち、改修を要しない転用諸室

ア 特別教室：3室

普通教室（3室）→特別活動室、PTA・コミュニティスクール室、生活科室

イ 管理諸室

普通教室（1室）→会議室

PTA室→進路指導室

(4) 屋内運動場棟（増築部分）

第二屋内運動場（第一屋内運動場は既存施設を活用する。）

(5) 児童会館

玄関、事務室、遊戯室（プレイルーム）、集会室、クラブ室、トイレ（個室トイレ、

多目的トイレ)、水飲み場、収納、多目的ホール(器具庫、収納庫含む)

(6) 屋外環境施設

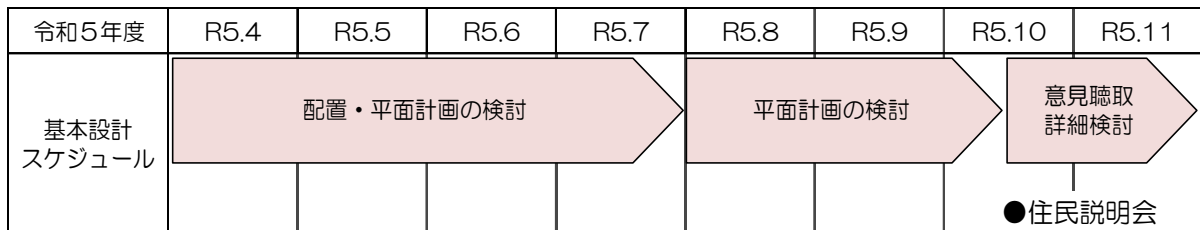
グラウンド用屋外物置、教材園

8 概算事業費

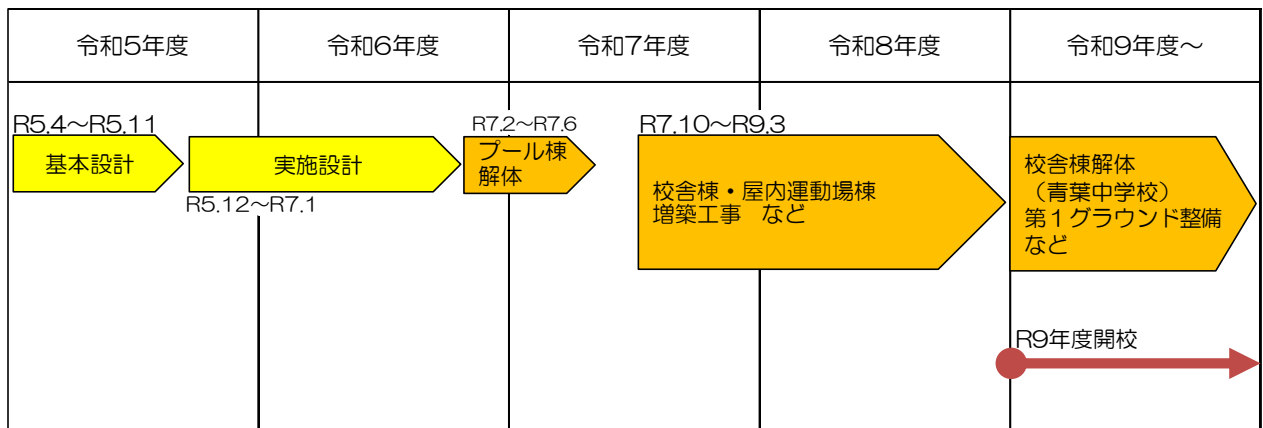
校舎等建設費	約	17億円
既存校舎内部改修費	約	5千万円
解体費	約	6億円 ※青葉中学校解体分
グラウンド造成費	約	5億円

9 基本設計の進め方と想定スケジュール

学校、PTA及び地域の代表等と協議しながら基本設計案を作成する。また、保護者や地域住民を対象とした住民説明会を開催し、意見を聴く。



10 新築等想定スケジュール



※施設整備時期については設計の過程で変更の可能性あり

(参考)

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shisetu/044/toushin/1414523\\_00004.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/044/toushin/1414523_00004.htm)

「小学校施設整備指針」

[https://www.mext.go.jp/content/20220624-mxt\\_kouhou01-000023406\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220624-mxt_kouhou01-000023406_02.pdf)

「中学校施設整備指針」

[https://www.mext.go.jp/content/20220624-mxt\\_kouhou01-000023406\\_03.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220624-mxt_kouhou01-000023406_03.pdf)

「CO-SHA Platform（コーシャプラットフォーム）」

<https://www.mext.go.jp/co-sha/>